

自 己 評 価 表

教育方針	自由闊達で進取の気風を持ち、広く高い知性を求めて深く学び、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成する。	重点努力目標	起こせ！ イノベーション —地域の発展に貢献する人材の育成— 地域と共に伸びる南高創り ①小・中学校との連携を強化し、地域の教育環境の向上を図る。 ②南高の魅力発信し、開かれた学校づくりを推進する。 ③積極的に地域交流を行い、地域資源の有効活用を図る。 学びの質を高める南高創り ①ICTの活用を推進し、自ら考え自ら学ぶ態度と学習習慣を確立する。 ②希望進路実現のため、感動ある授業と個別指導の充実を図る。 ③基本的な生活習慣を確立し、学習意欲の向上を図る。
------	---	--------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	1 地域に開かれた学校運営	地域と連携した活動による学校の魅力化の推進	A	愛南町との連携による公営塾や給食も順調に実施できたことで、学校の魅力化につながっている。教育振興協議会の支援も大きく、海外研修をはじめ、南宇和高校のPRにつながっている。	愛南町との連携、教育振興協議会からの支援による活動、総合的な探究の時間を活用した地域の人材を活用した教育活動など、特色を生かした教育活動について継続した実践を行う。
	2 学校の魅力を情報発信	学校ホームページを毎日更新、「南高通信」を毎月発行	B	ホームページの南光ブログを充実することで、本校の魅力発信につながった。南光ブログはその日の学校行事をタイムリーにアップした。一日の平均閲覧数は280件程度あり、昨年より1割程度の増加となっている。	本校の多方面の魅力発信のために全教職員が取組む意識を持ち、南光ブログを毎日更新する。南高通信も掲載内容が偏らないよう、本校への進学に関する情報や取組を掲載する。
	3 皆勤率の向上	全校の1か年皆勤者数180人以上 A:180人以上、B:179～170人、C:169～160人、D:159～150人、E:150人未満	E	全校生徒数252人に対して1か年皆勤者数は、108人(42.9% 2学期末現在)であった。2学期以降で欠席する生徒が多く見られた。	生徒数の減少に伴い、皆勤者数よりも割合で評価するほうが望ましいため、評価基準を変更する。皆勤の数値が目的ではなく、体調の自己管理ができることを目標に意識の高揚を図る。
	4 公開授業の充実	公開授業見学者 延べ100人以上 A:100人以上、B:99～90人、C:89～80人、D:79～70人、E:70人未満	A	P T A総会出席者は46名であった。また、体育祭、文化祭などの学校行事において学習活動の様子を見ていただく機会を設け、多くの保護者に生徒、学校の様子を見ていただくことができた。年2回の公開授業の参観者も増やしていきたい。	学校ホームページやまちこみメールを活用して案内するなどの工夫が必要である。
学習指導	5 家庭学習の充実	家庭学習(自主学習)1日2時間以上 A:2時間以上、B:1時間59分～1時間30分、C:1時間29分～1時間、D:59分～30分、E:30分未満	A	2学期における家庭学習時間調査では180分を超える生徒が増えてきている一方、クラス間での差が激しい。調査期間だけでなく、ふだんから家庭学習を習慣化させていきたい。	今後も家庭学習時間の少ない生徒への働き掛けを行い、基礎学力の定着を図る。
	6 基礎学力の定着	適切な課題提示と家庭学習状況の確認	A	適切な課題が提示され、提出期限を守って提出された課題から家庭学習状況の確認が行われた。	課題は各教科での偏りがないよう計画的に実施し、生徒の負担になりすぎないように配慮していく。
	7 分かる授業	ICT機器活用の授業推進と授業研究会の実施	B	I C T機器の活用は各教科で進められているようである。これからも魅力ある授業づくりを心がけていきたい。	今後もMicrosoft365やEILS、百問繚乱等の効果的に活用を促し、スキルアップを目指していきたい。また、一人一台端末の効果的な活用を推進する。
	8 ICTの活用	教科・ホームルームでのMicrosoft365及び一人一台端末の利用促進	B	T e a m sを用いての生徒連絡やF o r m sを用いたアンケートの集計等、授業や総合的な探究の時間で活用が見られた。	今後もMicrosoft365を利用し生徒一人一台端末の利用方法の研修会を実施するとともに、教科会で利用方法について研究し、教科に応じた活用を促進する。
生徒指導	9 基本的な生活習慣の確立	校則などルールを守っている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	身だしなみ指導をはじめ、校則を遵守する割合が昨年度より高くなっている。一人一人の主体的な規範意識が向上しているのではと感じる。	普段から自分の身だしなみに気を使える、規範意識の高い、主体性を持った生徒を育成する。
	10 安心・安全な学校生活の確立	学校生活を安心して送れている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	B	ほとんどの生徒が安心して学校生活を送っているが、中には、不安要素(友人関係、SNS問題等)を抱えている生徒も少なくない。開かれた学校にするためにも、生徒に寄り添った生徒指導を心がけ早期発見、早期解決に繋げたい。	生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、今後も生徒に寄り添った生徒指導を心がけ、友人関係やSNS問題に早期発見・早期解決ができる体制を整える。
	11 部活動の活性化	自らの目標に向けて努力をしている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	部活動の加入率も110%(重複有)と年度当初から高く、それぞれの部活動が目標を持ち、活発に活動している。本校の生活指針である、「勉学に部活動に気力を」を念頭に、有意義な部活動が行われている。	学校の生活指針でもある、「勉学に、部活動に気力を」を念頭におき、生徒が主体的に部活動に参加できる体制を整える。
	12 学校行事の充実	学校行事が充実していると感じる生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	生徒が主体的に学校行事に参加している。企画運営も含め、体育祭や文化祭では、限られた範囲の中で生徒会や各種委員会が中心になり、学校行事を盛り上げてくれた。	生徒会や各種委員会が中心となり、生徒主体で学校行事が行えている。今後も、ボトムアップ(生徒が自ら考え、行動する力)を引き出す。
進路指導	13 進学指導及び実績	幅広い受験方式に対応した面接・小論文指導の充実を図り、進学決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	叶夢センターのスタッフの方々の協力も得ながら、面接、小論文指導を行ってきたが、最終的に志望先の変更を余儀なくされる生徒もいた。最終決定した出願先への合格が100%になるまで支援していきたい。	叶夢センターのスタッフとの連携をさらに密にして、生徒のより高い成長を促す指導ができるよう改善していきたい。特に、面接、小論文などは、総合型選抜、学校推薦型選抜入試において大変重要な能力になるので教員全員で対応する体制の充実を図りたい。
	14 就職指導及び実績	就職ガイダンス・面接指導の充実を図り、就職決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	A	学校幹旋就職希望者は一度目の試験で全員が内定をいただいた。公務員試験にも3人合格するなど頑張る姿が見えた。	引継ぎをしっかり行い、情報共有を密にして来年度も100%合格を目指したい。
	15 進路実現のための指導	担任による進路面接の実施、年5回以上(三者面談を含む平均回数) A:5.0回以上、B:4.9～4.0回、C:3.9～3.0回、D:2.9～2.0回、E:2.0回未満	A	ことあるごとに面接を行い、生徒の進路希望や悩み等の把握、進路情報の提供に努めている。生徒との信頼関係を高め、進路実現につながる働きかけができていく。	来年度も本年度の取り組みを踏襲しつつ、進路課からの意識統一と学年団での意思疎通を図った指導ができるよう、積極的に改善していきたい。
	16 キャリア教育の充実	インターンシップの充実、進路ガイダンスの実施	B	インターンシップを3日間実施し、総合的な探究の時間では地域人材にも入っていたが、毎週キャリア教育を行っている。更に、外部講師による就職面接指導や南予地方局による企業合同説明会も行うなど充実している。	自ら課題を見つけて取り組む姿勢や、活動の成果を自分の言葉で語れる表現力など、まだまだこれから身に付けるべき課題もある。また、学校外の人、機関とのつながりや、キャリアパスポート等の活動記録の有効な利用法を工夫したい。
心の教育	17 教育相談の充実	SLAによる1、2年生全員との面談実施	A	今年度も一人一人に多くの時間を割いて面談を実施した。またスクールソーシャルワーカー(S S W)による訪問が月一回行われるようになった。	SLAによる面談は今後も充実させていくと共に、月一回のSSWの訪問も有効に活用していくことを考えた。
	18 人権・同和教育の充実	教職員の資質の向上と生徒の日常生活に生きる人権・同和教育の推進	A	宇和島地区高校生人権委員との交流学習会に参加し、津島分校からはアンネのバラを株分けして頂けるなど、他校との有意義な交流を実施することができた。	他校との交流は生徒にとって大変意義のある活動であり、教員の資質の向上にもつながることなので、今後も積極的に取り組んでいきたい。
	19 朝読書の定着	朝読書によって、本を全く読まない生徒をなくす	B	朝読書によって毎日10分の読書時間を確保でき、多くの生徒が静かに読書することができていた。また週1回、放課後の図書館開放も実施するようになった。	朝読書が有意義な時間となるように「一斉に始める」「みんなで毎日読む(教員を含む)」ことを徹底し、読書の習慣化に向けて全校体制で取り組む。
	20 図書館教育の充実	図書館の充実を図り、生徒の読書冊数を年間一人4冊以上 A:4.0冊以上、B:3.9冊～3.5冊、C:3.4冊～3冊、D:2.9冊～2.5冊、E:2.5冊未満	A	新刊図書の購入や図書館だよりを2カ月に一度配布し、図書館の利用促進を図ることができ、年間読書冊数5.9冊と目標を達成することができた。	生徒にとって魅力的な本の設置に取り組み、図書館だよりの定期的な配布を継続し、図書館の利用促進に努め、生徒の読書冊数向上に取り組む。
地域連携	21 教育機関の連携	小学校・中学校・高校との交流学習の実施及び参加回数10回以上 A:10回以上、B:9回、C:8回、D:7回、E:7回未満	B	小学生との田植えや中学生との園芸活動を通して、一緒に活動して教える楽しさや難しさを体験することができた。	稲刈りや野菜栽培、花壇整備などいろいろな分野で小中学校との連携学習を増やしていきたい。
	22 地域資源の活用	イベントやコンテストの参加を通して、特産品のPR活動を実施	A	東京や仙台での河内晩柑の販売活動や産業祭などのイベントで河内晩柑を使ったマーマレードやジュースを販売してPRすることができた。	引き続き「農業アクション大賞」や「プレゼン甲子園」などのコンテストにも積極的に参加し、地域の魅力を発信していきたい。
	23 地域交流・地域貢献	地域交流参加生徒数延べ500人以上 A:500人以上、B:499～470人、C:469～440人、D:439～400人、E:400人未満	A	オレンジロードの花壇管理や奉仕活動、地域振興研究部の活動などで積極的に地域に出て活動することができた。	地域の資源を生かした授業や活動を多く取り入れて、高校生の若い力を地域の活性化につなげていきたい。
業務改善	24 環境美化の推進	校内の清掃活動に積極的に取り組む生徒90%以上 A:90%以上、B:89～85%、C:84～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	生徒数減少により生徒一人に対して清掃場所が広域となり、清掃が行き届いていない場所等もある。	少人数でも、清掃ができるよう配置や実施方法などを検討し工夫する。清掃時に音楽を流すなどして清掃時間の終わりを意識付けさせることや普段から校内美化に努めさせることなどを、周知徹底する。
	25 教育環境の整備の推進	長寿命化改修工事による施設設備の整備推進	A	県担当者と本校との改修工事計画連絡会で、要望事項・環境整備の要望を出している。限られた予算での第3教棟・体育館の改修であるが計画は順調にできている。	R7年度は工事が本格化するため、環境整備とともに学校全体の学習環境を整えることを目標にし、教職員や生徒・保護者への周知徹底を行う。
	26 働き方改革の推進	部活動休養日(ノー残業デー)の実施によるワークライフバランスの改善	B	毎週木曜日と土日のうち1日を「部活動休養日」として設定することが、昨年度よりも実践できた。部活動顧問の立場も含め、本校教員の意識調査結果から県平均より良好な傾向がうかがえる。	部活と仕事の効率化、校務分掌による仕事の偏りを無くすることができるよう努める。個人の意識改革を促すことで、仕事に対するやりがいや達成感が味わえるようなワークライフバランスを実現する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。